

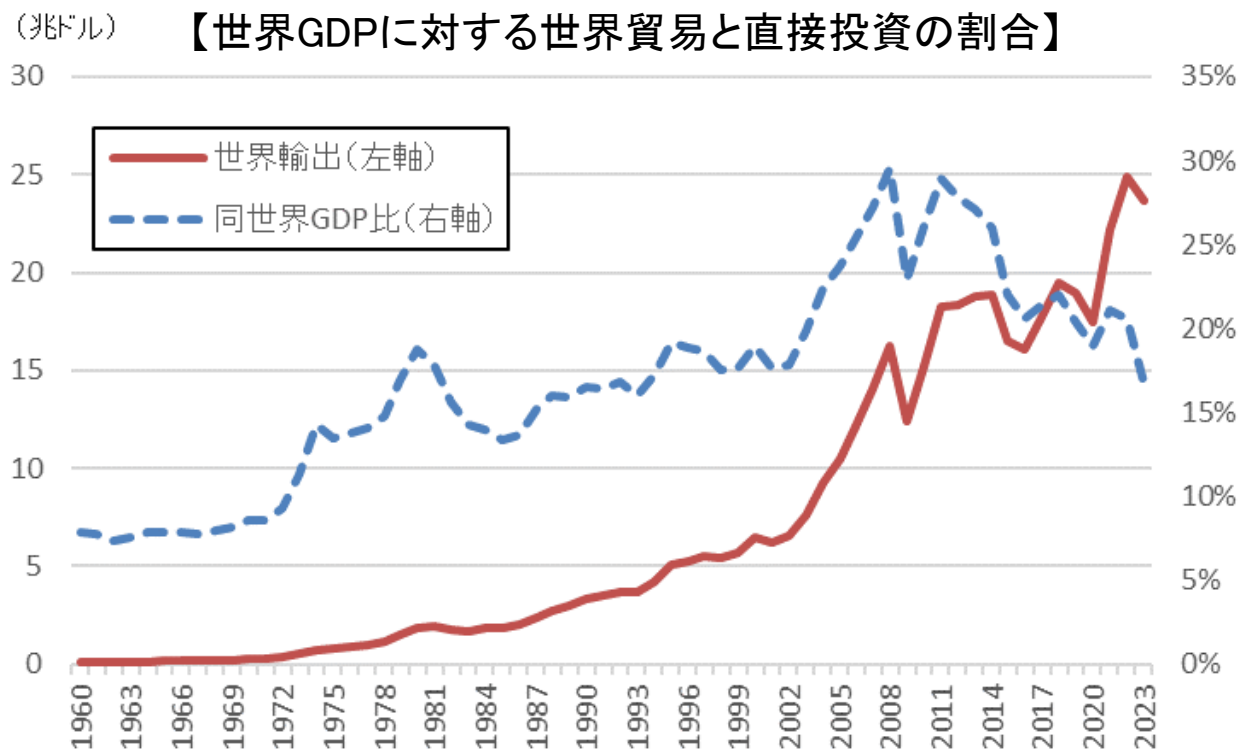
拡大する世界経済の分断

2024年5月8日

新潟県立大学 中島厚志

○ 世界経済ではグローバル化が止まってきている

- ・ 世界は、人、モノ、投資が規制緩和や通信情報技術の進歩などで互いに盛んになること(グローバル化)で成長してきた
- ・ しかし、リーマンショックの後、金融危機(世界金融危機、ユーロ危機)、米中対立、コロナ禍やウクライナ戦争などで世界輸出の対世界GDP比は縮小傾向が続いている



(出所)IMF、OECD

○ しかも、2022年以降は世界経済の分断(デカップリング)も進んでいる

- ・デカップリングとは、国や地域間の投資や貿易を規制や関税で妨げ、連動させない動きのことを指す。「2018年、トランプ政権下の米国が中国製品に高い関税を課し、中国が米国製品への課税で報復したことで米中貿易摩擦が深刻化した
- ・トランプ大統領がバイデン大統領に代わっても、経済安全保障が優先されて半導体など先進技術の輸出規制や、自国での生産を促す法制度の導入を進め、米中の分断がさらに深まっている。また、日本やEUも経済安全保障を重視しており、EUでは特定の国に特定の戦略物資の過度な依存を避けるデリスキング政策が行われている
- ・加えて、ウクライナ戦争によって西側諸国はロシアを経済制裁しており、資源大国であるロシアの資源の貿易が絞られたことが世界的なインフレの原因となった

【デカップリングとデリスキング】

【デカップリング】

国や地域間の投資や通商を規制で阻害し、連動させない動きのことを指し、「(世界経済の)分断」とも言う。
従来は、主として先進国経済と新興国経済が連動して動かないことを指していた。

【デリスキング】

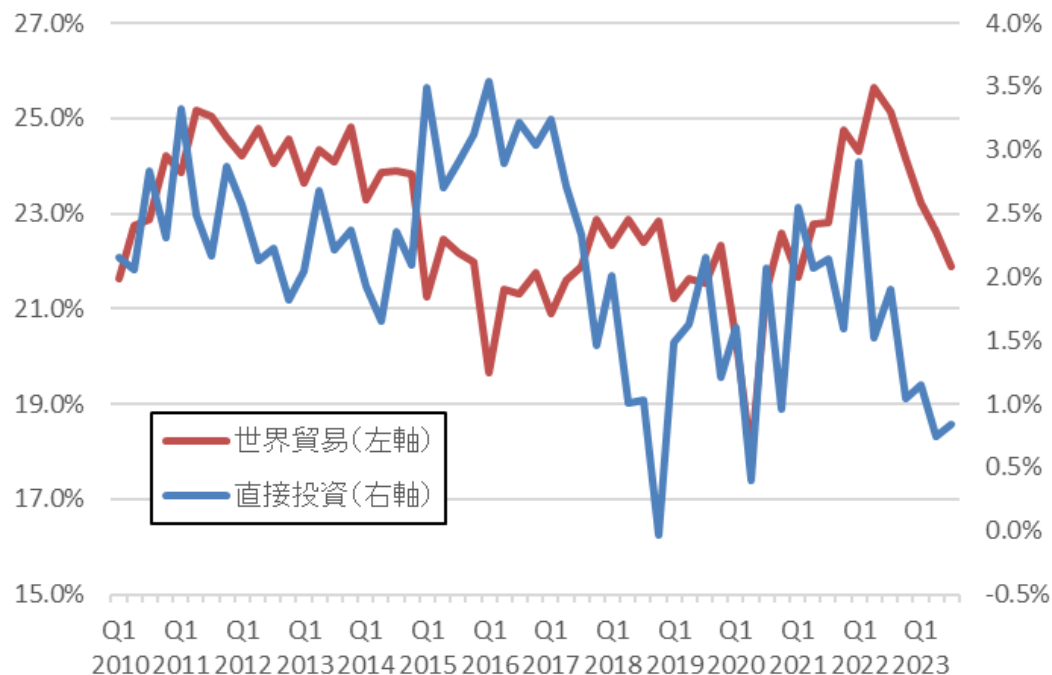
特定の国・地域へのある財の過度の依存を回避するため、調達や生産を他の国・地域に分散すること。
具体的には、自国・地域の経済・産業にとって必要不可欠なレアアースやバッテリーなど原材料・一部の財について、中国あるいは少数のアジアの国々などに大部分の生産・供給を依存する状況を弱めることを意味している。

「経済安全保障」とは

国家が、自国の経済活動や国民生活に対する脅威を取り除き、一国の経済体制や社会生活の安定を維持するために、エネルギー・資源・食料などの安定供給を確保するための措置を講じること

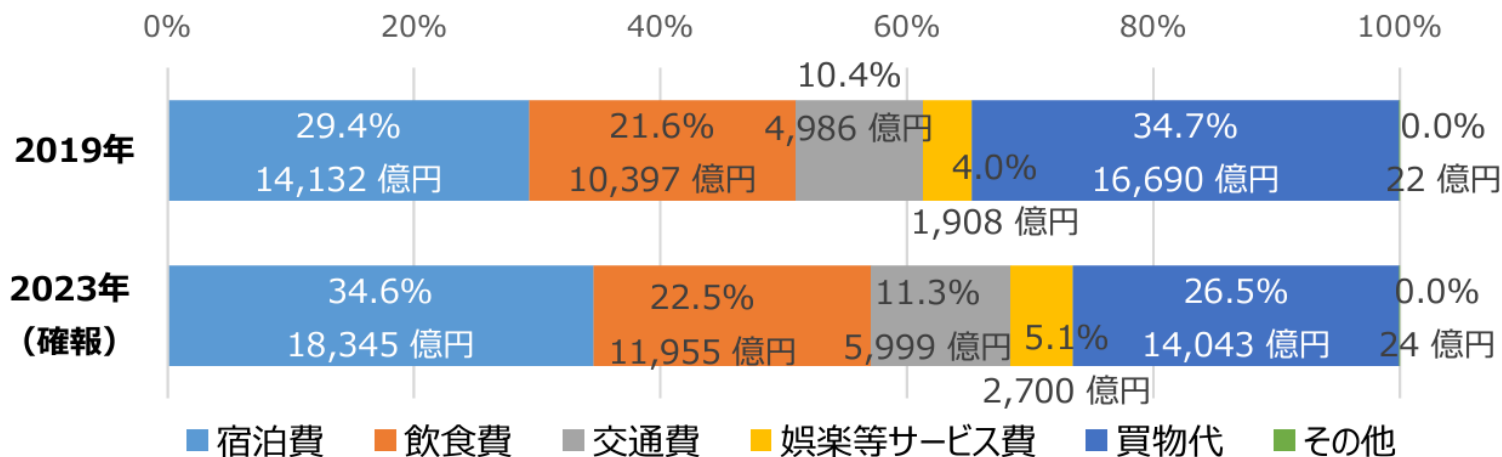
- 2022年以降は米中対立の深まりに世界的な景気減速が加わり、世界のGDPに占める世界輸出と直接投資の割合が大きく落ちており、金融危機やコロナ禍といった自然災害ではない地域間の対立によってデカップリングが進んでいる
- ・ 2023年になってからの世界GDPに占める世界貿易の割合は米中貿易摩擦が起きた2018年以降コロナ前までの割合を下回ってきており、世界GDPに占める直接投資の割合はさらに下回ってきている。グローバル化が貿易と直接投資の伸びで世界の国々の人々の生活を豊かにしてきたことから、グローバル化の停滞が強まることは人々の生活がなかなか豊かになれないことを意味する

【世界GDPに対する世界貿易と直接投資の割合】



- 日本もデカップリングと無縁ではない。とりわけ米中の中間にあり、ロシアとも接している北東アジアに位置する日本にとっての基本はグローバル化が阻害されないように努力すること
- ・今のところ円安やインバウンドなどがグローバル化停滞の日本への影響を軽減している。日本では2022年5月に経済安全保障推進法が制定され、半導体の生産誘致が進んでいる。また、国内ではインバウンドが盛り上がり、内なるグローバル化と観光産業の競争力強化の余地が大いにある
- ・しかし、1929年の後に世界の主要国がブロック経済圏を形成したことは世界貿易の停滞を招き、ブロック経済圏以外の国々を不況に陥れた。その再来とならないように、一定の新秩序が必要としてもグローバル化を止めない国際協調が欠かせない

【訪日外国人旅行消費額の費目別構成比】



(出所)観光庁「訪日外国人消費動向調査」、2024/3